

第 217 回 昭和の森自然観察会

青い鳥を探そう！

木下順次（千葉市）

日 時：2010年1月10日（日）13～15時 天気：晴

参加者：子ども10名 大人27名 指導員25名 合計62名

担当指導員：渋谷雄二・谷 英男・木下順次

大寒も近い1月の観察会ですが、天候に恵まれ、太陽に向かってじっと観察をしていると顔が熱く感じるほどの観察会日和の一日でした。4班に分かれ、「青い鳥」に会えることを楽しみに、冬の代表的な野鳥を観察していただきました。

参加者の方が、大変精密にできた手作りの野鳥模型（バードカービング）をもってこられたので、観察会開始までの短い時間でしたが、他の参加者の方々と興味深く見せていただきました。

野鳥の漢字名の不思議

緑色なのに「アオゲラ（緑啄木鳥）」や「アオジ（鶯雀）」だったり、灰色なのに「アオサギ（蒼鷺）」だったり、「アオ」のつく野鳥には実際と色が異なる場合があります。でも漢字名を確認すると、見当がつきます。青い鳥の本命である「ルリビタキ（瑠璃鶺鴒）」や「カワセミ（翡翠）」には「アオ」自体が使われていません。野鳥観察に際して、色は識別の重要なポイントですが、「青い鳥」に関しては、名前（和名）と色の関係は少し注意が必要です。

ルリビタキを探して

森林、谷津、池、草原と様々な生息環境を有する昭和の森では、それぞれの環境を好む、多くの種類の野鳥が冬を過ごしています。下夕田池からハナショウブ園の谷津にかけては、セキレイ類やジョウビタキ、カラ類、モズ、カワセミその他が姿を見せてくれ、じっくりと観察することができました。

ルリビタキについては、暗い林内を好むため、姿を見つけるのは難しいですが、この時期は♂♀問わず、1羽ずつ縄張りをもつため、生息場所の大体の見当がつきます。3班のうち参加者が実際に姿を見ることができたのは一班だけでしたが、盛んに地鳴きをするので、鳴き声でその存在を知ってもらうことができました。特徴的な「フィ、フィ、フィ、チャ、チャ、…」という鳴き声を覚えてもらい、生息場所の見当（四季の道の両側の斜面林、小中池への降り口等）もつけてもらいましたので、これを機会にバードウォッチングに興味をもっていただいた参加者の方には、次回の来園の折にも、再度探鳥してもらえたらと思います。

姿を見られたり、声を聴けた鳥たち

ガンカモ科（マガモ、カルガモ、ホシハジロ）、クイナ科（バン、オオバン）、ハト科（キジバト）、カワセミ科（カワセミ）、キツツキ科（コゲラ）、セキレイ科（キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ）、ヒヨドリ科（ヒヨドリ）、モズ科（モズ）、ツグミ亜科（ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ）、ウグイス亜科（ウグイス）、シジュウカラ科（シジュウカラ）、メジロ科（メジロ）、ホオジロ科（アオジ）、アトリ科（シメ）、ムクドリ科（ムクドリ）、カラス科（ハシボソガラス、ハシブトガラス）、他

※トラツグミ…寅年の今年、午前中の指導員研修時に真っ先に見つかりました。

土色と黒のコントラストが美しい野鳥です。